

こころもよう

人間の心模様はさまざまに変化しています。『大日経』に六十種類の心理状態が、具体的に、しかも、おもしろい比喻で説かれています。

たとえば、「智心」は賢ぶったうぬぼれの心、「風心」はフラフラとする浮気的心、「火心」は熱狂的なスポーツファンのような心、「室宅心」は自分の安全だけを守る自己中心的な心と、それぞれの心をモノゴトに喩えています。さて、「剃刀心」とはなんのでしょうか。あなたならば「カミソリの心」をどのように解説しますか。『大日経』では、「出家者の悟り澄ましたような心」と答えています。

そのほかに「貪心」「疑心」「闘心」「鳥心」「鼠心」「雲心」「女心」などがあり、その六十の心模様のほとんどが私のなかに潜んでいて、なるほどなるほどと、感心したり、反省したりすることばかりです。

ここに説かれている「六十心」はほんの一例であって、『大日経』ではさらに「百六十心」にも触れています。しかし、煩雑になるために経典では詳しくは説いていません。千変万化する心の状態をすべて説き明かせば、ついに終わることはないでしょう。それほど、心のバリエーションは多く、広く、深く、複雑怪奇な様相を呈しています。

俗なる人間の意識から、聖なる仏の世界へと変わっていくときは、様々な心の模様が現れてきます。人間の心中には、善と悪が同居しています。悪にメスを当てて念仏を唱えるのが「浄土宗」系であり、善に焦点を絞って仏性を開発するのが「真言宗」や「禅宗」系です。悪をハッキリと自覚し、深い反省のうへで善へ向って、新しく生まれ変わっていくことが大切です。

人間の心は一瞬一瞬に変化します。この心は、喜んだり、悲しんだり、広くなったり、狭くなったりして、電波のように超スピードで四方八方を走りまわっています。このつかみがたい心を、正しくコントロールして使うことを、弘法大師はわれわれに願っておられます。